

総 合 食 品

'18
12

food business & marketing

上場スーパー第2四半期決算に見る
加速するスーパー経営統合の実情





ジャパン・パワイリオンは大盛況

日本酒・焼酎・ジャパニーズウイスキーにますます注目高まる 香港インターナショナルワイン&スピリッツフェア

第

11回目となる「香港インターナショナル・ワイン&スピリッツ・フェア」(香港貿易發展局主催)が、11初旬、香港コンベンション&エキシビション・センターで開催された。会場には33の国・地域から1075社が出展、約70のイベントやセミナー、試飲会で大変な盛り上がりを見せた。

2008年、香港政府がワインのすべての輸入関税と行政管理を撤廃したことにより、香港のワイン輸入額は2007年の16億香港ドルから2017年には120億香港ドルへと約7倍に増加した。ユーロモニターの調査によると、2017年〜2022年のアジアにおけるワイン売上額は毎年6・7%増加する見込みとしている。そのなかで空と海の交通の利便性と優良な保管施設を備えた自由貿易地として、香港はもともと費用対効果の高いワイン流通ハブとして世界的に認知されているのだ。

今回のフェアでも、フランスをはじめとするクラシッなワイン生産国、輸送面でメリットの大きいワイン新興国オーストラリア、また最も新しい国インドも、香港と中国本土へビジネスを拡大する出発点として香港ハブを強く支持している様子がうかがえた。

ちなみに、香港のワイン輸出額は28・

7億香港ドル(3億7千万ドル)。ワインの輸入額は91億4千万香港ドル(11億7千万ドル)。つまり輸入した3分の1が再輸出されている計算で、その中には中国メインランドという巨大な市場が含まれていると見ていいだろう。

世界視点からすれば超新興国の日本ワインは、サントリーワイン、シャトー・メルシャンはじめ、長野から塩尻ワイン協会(塩尻市産業振興事業部産業政策課)、北海道から北海道ワイン等が出展した。日本酒とともに、和食には日本産ワインという傾向が徐々に始まりつつある。人気とともに需要が伸びることを期待したい。

日本酒は、新潟県酒造組合、岐阜県、熊本商工会議所が「TEURO」の協力のもと出展。現地取引がすでにある、栃木県産酒、福島県産酒、愛知県産酒、山形県産酒なども現地業者ブースから多数出展。

また、焼酎をはじめとした蒸留酒、とくにジャパニーズ・ウイスキーの出展がかなり注目を浴びていた。ジャパニーズ・ウイスキー、ジャパニーズ・ポタニカル・クラフトジンの人気からも想像できるように、これからは日本産蒸留酒へと市場の興味はシフトしていくのではないだろうか。日本ブースは、B&B、B&Cのお客様が連日訪れ大盛況だった。

(トータル飲料コンサルタント 友田昌子)